

# 眼科

## 1. 眼科診療部紹介

私ども眼科は2006年4月現在9名(内3名は日本眼科学会認定の専門医)の眼科医師が常勤医として診療に当たっています。単に白内障手術適応症例を扱う眼科クリニックではなく、地域を超えた多くの先生方から信頼と安心を以て難治症例を御紹介いただけるような病院眼科として機能しています。

特に、網膜硝子体部門の診断治療体制の充実が地域の先生方からの切なる御要望であります。これにこたえるかたちで、SLO(走査型レーザー顕微鏡)、OCT3000(光干渉断層撮影)、Multifocal ERG(多局所網膜電位図)などの先端診療器材の導入とともに従来大都市部の特殊病院でしか行われなかった網膜硝子体特殊検査の部門でも遜色のない専門機関として機能しています。また眼外傷や増殖性網膜疾患、黄斑部疾患、難治性ぶどう膜炎などの知識や技量、経験を要求される疾患に対しても迅速な手術対応が可能です。

## 2. 外来診療

亀田クリニックでの外来診療は午前9時から午後5時まで6つのブースを使用し土曜日曜を除く毎日4診から5診で診療を行っています。土曜日は午前中のみでの診療です。また一般外来と並行して視野検査、斜視・弱視の検査、電気生理学的検査、蛍光眼底撮影などの特殊検査、糖尿病網膜症などのレーザー光凝固手術や斜視・弱視の視能訓練やロービジョンケアを行っています。コンタクトレンズや眼鏡の処方、装用練習は随時行っており、亀田グループの眼鏡店がすぐ対応できるようになっています。亀田総合病院内では眼科病棟であるKタワー6階で入院患者用の2診と救命救急センターの眼科救急診察室で1診の診療を行っています。その他、周産期センターでの未熟児の眼底検査、健康管理センター(人間ドック)での眼科所見の判定も眼科医員が対応しています。

	月	火	水	木	金	土
午前 初再診	石垣	岩川	内田	横山	小野	交代制
再診	小野	堀田	横山	堀田	石垣	交代制
再診	横山	野村	野村	岩川	内田	
予約外	野村	小野	石垣	内田	岩川	交代制
午後 初再診	小野	横山	横山	石垣	石垣	
再診	野村	石垣	野村	野村	野村	
予約外	内田	岩川	内田	岩川	内田	

広い範囲から直接外来患者さまがおいでであるとともに、地域の基幹病院として他の眼科診療施設からのご紹介も多く、当科の責任は重大であると自負しています。2005年度に千葉県内の施設からご紹介いただいた総紹介数は延べ400回を越え、100を超える施設からご紹介をいただきました。また、県外からのご紹介や、大学付属病院、国立病院、眼科専門病院からのご紹介も増え、地域を越えた全国の眼科診療機関との連携も深まり、我が国眼科診療の発展のためにも邁進しています。2005年度には、昭和大学病院、井上眼科病院、横浜市立大病院、近畿大学病院、慶応大学病院、虎の門病院、自

治医科大病院、若葉眼科病院、順天堂浦安病院、順天堂大学附属医院、千葉大学病院、帝京大学市原病院、島根大学病院、東京歯科大学市川病、東京女子医科大学病院、東邦大学付属佐倉病院、北里大学東病院、琉球大学病院、獨協医科大学越谷病院、ほか多数の眼科専門施設からのご紹介を頂きました。

### 3. 手術

手術眼科の手術日は月～金曜日までの毎日午前午後です。眼科部長がクリニック手術センター長を兼務しています。クリニック手術センターには眼科用手術室が2室用意され随時使用が可能です。またカールツアイス社製 VISU200 及びライカ社製 M841 の最新型手術顕微鏡やアルコン社製 ACCURAS 及びストルツ社製 MILLENNIUM の導入により、高度な網膜硝子体疾患に対する手術対応も随時可能です。

### 4. スタッフ紹介

堀田一樹(部長)以下、小野賀子(医長)、堀田順子、横山恭典、石垣純子、野村工、岩川雅哉、内田淳子、横田怜二の計9名の常勤医師からなる眼科医局と鎌田奏子(主任)以下、曾我辺、佐生、鈴木、伊藤、水嶋、末吉の7名の常勤視能訓練士及び有馬(OMA)からなる総勢8名の眼科技術室を擁する、全国的にも大規模な眼科診療部として常時診療に当たっています。

亀田病院眼科医局の特徴は卒後2年目の研修医から卒後10年を超える専門医まで、また全国のさまざまな大学病院、眼科専門病院で研修を積んだ個性あふれる面々で構成されていることにあります。スタッフ各人のもつ特性や得意分野を最大限に尊重しつつお互いに向上しあえる刺激に常に満ち溢れた医局であります。

特に眼科専門医志向中の医師にとってはまたとない絶好の研修施設であることに間違いのないものと確信します。

堀田一樹(部長、ぶどう膜・網膜・硝子体)：1988年鳥取大学医学部卒、日本医科大学眼科学教室入局、1993年日本医科大学眼科学助手、1996年杏林大学眼科学助手、日本医科大学眼科学(兼任)講師、1998年DUKE大学(米国)眼科・分子生物学研究員、2000年亀田総合病院眼科部長。

小野賀子(医長、白内障・未熟児網膜症・黄斑変性症)：1994年杏林大学卒、杏林大学眼科学教室入局、1997年湯河原厚生年金病院眼科、1999年湯河原厚生年金病院眼科医長、2004年亀田総合病院眼科医長。

堀田順子(甲状腺眼症・緑内障・網膜・硝子体)：1996年杏林大学医学部卒、杏林大学眼科学教室入局、2000年オリンピック眼科病院、2001年亀田総合病院眼科。

横山恭典(白内障手術)：1996年日本医科大学卒、1999年日本医科大学眼科学教室入局、2006年亀田総合病院眼科。

石垣純子：2001年金沢医科大学卒、杏林大学眼科学教室入局、2006年亀田総合病院眼科。

野村 工：2000年信州大学医学部卒、2001年東京女子医科大学眼科学教室入局、2005年亀田総合病院眼科。

岩川雅哉：1997年秋田大学医学部卒、2005年亀田総合病院眼科。

内田淳子：1995年川崎医科大学卒、2005年亀田総合病院眼科。

横田 怜二：2004 年東京医科歯科大学医学部卒、2006 年亀田総合病院眼科。

## 5．亀田病院眼科ではこんなことができます

### 1)白内障手術

白内障手術は全国で年間 60 万人と眼科で最も多い手術であり、当院でも年間 700 人程の方が受けられています。手術は点眼麻酔で行っており、小切開無縫合の日帰り手術が大半です。専門分化の進んだ昨今ではあっても、已然白内障手術は眼科医に要求される基本的な手術手技であり、従って当院では教育病院として研修医時期から積極的に実技研修を行っています。

### 2)緑内障の治療

当院では人間ドックや眼科検診を当科医師が担当するため比較的早期の緑内障患者をピックアップ出来る率が高いようです。また緑内障の治療は適切な点眼薬処方やレーザー治療適応の判断と手術治療のタイミングが決め手であり、眼科において内科的・外科的資質の要求される分野でもあります。眼底所見(視神経乳頭、神経線維)の読める医者が担当しています。

### 3)ブドウ膜炎の治療

ブドウ膜炎は、全身的な病気を原因とすることが多いので血液検査などとともに内科的にも原因を調べることが大切です。幸い亀田病院には内分泌内科や膠原病内科などの有力なサポートが保証されています。治療は主に消炎点眼薬を使用しますが、内服薬や点滴を使用した入院加療や手術を要する場合もあります。特に当科では混濁硝子体の切除目的とともに、サイトカインや免疫学的検査目的の診断的硝子体切除術を積極的に行いよい治療成績を得ています。

### 4)網膜硝子体疾患

日本人の失明原因第 1 位である糖尿病網膜症を筆頭に網膜剥離・網膜静脈閉塞症、黄斑部変性症など数多くの疾患に対し、必要かつ十分なレーザー治療、手術治療(硝子体手術)を行っています。得に網膜硝子体を得意分野とする研修病院で眼底検査に習熟した医師が当科には多数在籍し診断力の高いチームとして治療にあたっています。

### 5)斜視・弱視

斜視や弱視疾患に対する検査と視能矯正は熟練した視能訓練士が担当し、家庭での訓練法などの指導もまじえながら医師とともに定期的な管理を行っています。また視能訓練士の活動範囲は広く、眼科診療の一般検査から低視力者への生活指導、一般啓蒙活動などさまざまな分野で活躍しています。

### 6)外眼部疾患

眼瞼下垂や二重瞼などの手術から涙道再建や眼窩腫瘍にいたるまで幅広い眼球外疾患にも専門の施設で研修を積んだ眼科専門医が対応しています。

## 6．学会発表

有澤 武士、小野 賀子、堀田 順子、堀田 一樹：結膜悪性黒色腫の 3 例、第 19 回神奈川県・昭和大藤が丘合同オープンカンファレンス、横浜市、2005 年 4 月 9 日

Hotta K, Hotta J, Arisawa T, Ono Y : Refractive changes in silicone oil-filled pseudophakic eyes, Annual Meeting of Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO), Ft Lauderdale, Florida, May 5, 2005

Hotta K, Hotta J, Arisawa T, Ono Y : Postoperative refractive error of secondary intraocular lens implantation after simultaneous vitrectomy and lensectomy, 2005 Meeting of The International Society of Refractive Surgery of the American Academy of Ophthalmology (ISRS/AAO), Hong Kong, China, May 16, 2005

堀田順子、小野賀子、中野敦雄、野村 工、有澤武士、堀田一樹：硝子体・水晶体同時手術後の眼内レンズ二次挿入の術後屈折変化、第 20 回日本眼内レンズ屈折手術学会、京都市、2005 年 6 月 18 日

中野敦雄、堀田一樹：片眼性に進行した眼底脱色素の 1 例、第 14 回千葉硝子体研究会、鴨川市、2005 年 9 月 3 日

Hotta J, Hotta K, Nagamoto T : Incidence of the vitreous staining in cataract surgeries with trypan blue capsule staining, XXIII congress of European society of cataract and refractive surgeons (ESCRS), Lisbon, Portugal, September 8, 2005

小野賀子：網膜色素変性症の病態、第 4 回千葉県難病医療相談「網膜色素変性症の集い」、館山市、2005 年 10 月 6 日

有澤武士、成田 信、小野賀子、堀田順子、堀田一樹：5-FU 点眼の奏効した MMC 点眼抵抗性の結膜上皮内癌、第 59 回日本臨床眼科学会、札幌市、2005 年 10 月 8 日

堀田一樹：硝子体手術の新たな展望と問題点「25G 硝子体手術の真価」、第 20 回千葉県眼科手術懇話会、千葉市、2005 年 10 月 30 日

中野敦雄、小野賀子、堀田順子、堀田一樹：眼部帯状疱疹発症後に進行した片眼性夕焼け状眼底の 1 例、第 44 回日本網膜硝子体学会、大阪市、2005 年 12 月 3 日

堀田順子、小野賀子、中野敦雄、有澤武士、堀田一樹：25G 経結膜無縫合硝子体切除後に生じた眼内炎の 1 例、第 28 回日本眼科手術学会、東京、2006 年 1 月 30 日

有澤武士、中野敦雄、小野賀子、野村 工、岩川雅哉、内田淳子、横山恭典、堀田順子、堀田一樹：マイトマイシン C 併用翼状片手術の前房への影響、第 28 回日本眼科手術学会、東京、2006 年 1 月 30 日

岩川雅哉、中野敦雄、小野賀子、内田淳子、野村 工、横山恭典、堀田順子、堀田一樹：脳外科的治療後に生じた視覚障害の 2 例、第 247 回千葉眼科集談会、千葉市、2006 年 3 月 12 日

堀田一樹、中野敦雄、小野賀子、野村 工、岩川雅哉、内田淳子、横山恭典、堀田順子：閉塞型傍中心窩網膜毛細血管拡張症、第 110 回日本眼科学会総会、大阪市、2006 年 4 月 14 日

Hotta K, Hotta J, Ono Y : Postoperative refractive error of secondary intraocular lens implantation after simultaneous vitrectomy and lensectomy. Annual Meeting of Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO), Ft Lauderdale, Florida, April 30, 2006

## 7. 原著論文

寺内直毅、堀田一樹：VDT 作業とドライアイ症状の関係-ヒアルロン酸ナトリウム点眼の効果-. 眼臨 99:38-41, 2005

寺内直毅、堀田一樹：水晶体切除・硝子体切除後の角膜内皮細胞密度減少. 眼科手術 18:241-244, 2005.

浜由起子、堀田一樹：網膜細動脈瘤破裂に対する硝子体手術後経過. 眼科手術 18:101-105, 2005

- 野村 工、堀田一樹：人間ドックでの糖尿病患者の網膜症新規発症と背景． あたらしい眼科 22:1577-1581、2005
- 堀田順子、堀田一樹：硝子体術後の眼内レンズ毛様溝二次挿入の術後屈折変化． 眼科臨床医報 100:227-230、2006
- 有澤武士、成田 信、堀田一樹：結膜悪性黒色腫の2例． 眼科手術 19:245-249、2006
- 有澤武士、成田 信、堀田一樹：マイトマイシンC点眼抵抗性の結膜上皮内癌に5-フルオロウラシル点眼が有効であった1例． 臨眼 60:571-575、2006
- Hotta K, Sugitani A : Refractive changes in silicone oilfilled pseudophakic eyes. Retina 25:167-170, 2005
- Hotta K : Early postoperative macular features determined by optical coherence tomography after idiopathic macular hole surgery with silicone oil tamponade. Ophthalmic Surg Lasers Imaging 36: 426-431, 2005
- Hotta K, Arisawa T, Mito H, Narita M : Squamous cell carcinoma of the lacrimal gland. Clin Experiment Ophthalmol 33:534-536, 2005
- Hotta K, Kondo M, Nakamura M, Hotta J, Terasaki H, Miyake Y, Hida T: Negative electroretinograms in pericentral pigmentary retinal degeneration. Clin Experiment Ophthalmol 34: 89-92, 2006
- Hotta K : A case of unilateral occult maculopathy with normal-tension glaucoma. Jpn J Ophthalmol 50:75-78, 2006
- Hotta K : Choroidopathy with serous retinal detachment in a patient with polymyositis. Eur J Ophthalmol 16:318-325, 2006

#### 8 . 亀田総合病院眼科学術講演会実績

##### 第1回学術講演会(2001年8月22日)

演者：茨木信博先生(日本医科大学付属千葉北病院 眼科教授)

演題：日常診療における斜視・弱視のマネジメント

##### 第2回学術講演会(2001年11月10日)

演者：永本敏之先生(杏林大学 眼科助教授)

演題：難症例の白内障手術

##### 第3回学術講演会(2002年3月16日)

演者：常岡 寛先生(東京慈恵会医科大学付属第三病院 眼科助教授)

演題：小さい切開層からの白内障・眼内レンズ術

##### 第4回学術講演会(2002年7月27日)

演者：鈴木康之先生(帝京大学 眼科教授)

演題：正常眼圧緑内障

##### 第5回学術講演会(2003年2月22日)

演者：山本修一先生(千葉大学 眼科教授)

演題：眼科電気生理学検査

第 6 回学術講演会(2003 年 7 月 26 日)

演者：安藤靖恭先生(慶應大学 眼科講師)

演題：ぶどう膜疾患の診療

第 7 回学術講演会(2003 年 11 月 22 日)

演者：佐藤幸裕先生(東邦大学付属佐倉病院 眼科教授)

演題：網膜光凝固

第 8 回学術講演会(2004 年 4 月 3 日)

演者：高橋浩先生(日本医科大学 眼科教授)

演題：白内障超音波手術におけるフリーラジカル

第 9 回学術講演会(2004 年 8 月 7 日)

演者：島崎潤先生(東京歯科大学付属市川病院 眼科教授)

演題：オキュラーサーフェス～診察のポイント～

第 10 回学術講演会(2005 年 3 月 19 日)

演者：河合憲司先生(東海大学 眼科教授)

演題：KAWAI 式前囊 FORCEPS の使用法

第 11 回学術講演会(2005 年 5 月 28 日)

演者：樋田哲夫先生(杏林大学 眼科教授)

演題：糖尿病網膜症の病態と治療』

第 12 回学術講演会(2005 年 11 月 12 日)

演者：松村美代先生(関西医科大学 眼科教授)

演題：緑内障手術治療の考え方』

第 13 回学術講演会(2005 年 4 月 1 日)

演者：飯田知弘先生(福島県立医科大学 眼科教授)演題：加齢性黄斑変性症の病態と治療

眼科医の分担領域は直径 3 センチ弱の小さな臓器で、ともすると狭い領域と思われがちですが、実際には奥が深く遺伝性変性疾患から重度の眼外傷まで病態も様々です。また患者層は幅広く、新生児から超高齢者まで全年齢層が対象になります。そのため医師、視能訓練士、看護師、医療スタッフ全員でそれぞれの患者さまの状況を判断しつつ、最善の医療を提供できるよう日々努力しております。

文責：堀田一樹